



日産エンジン博物館から 思い出の世界へ

エンジン博物館は、日産自動車が横浜の地に誕生したときより35年もの間、本社事務棟として使用されてきた建物を一部改装してはいるが、基本的には、そのまま転用している。

に残る木の床板もある。

エンジン博物館は、これまで社内のエンジニア向けに公開されてきたものを拡大したもの。

1階には、1986年から各地に眠っていた貴重な試作型・レース用のエンジン収集を開始し、現在では含めて約280基を横浜工場内で保管している。

その中から日産の歴史を作り上げてきた23基のエンジンが厳選展示されている。

1929年に日産自動車の前身であるダット自動車が開発した直列4気筒495ccサイドバルブエンジンの「7」型や、ル・マン24時間耐久レースに照準を合わせて開発された「VRH30」型、現在の日産エンジンの主力となっている「VQ」型など、普段は上からしか眺められないエンジンの全体像を見られる機会は、自動車整備業界に携わっている皆様でも、なかなかないのでは

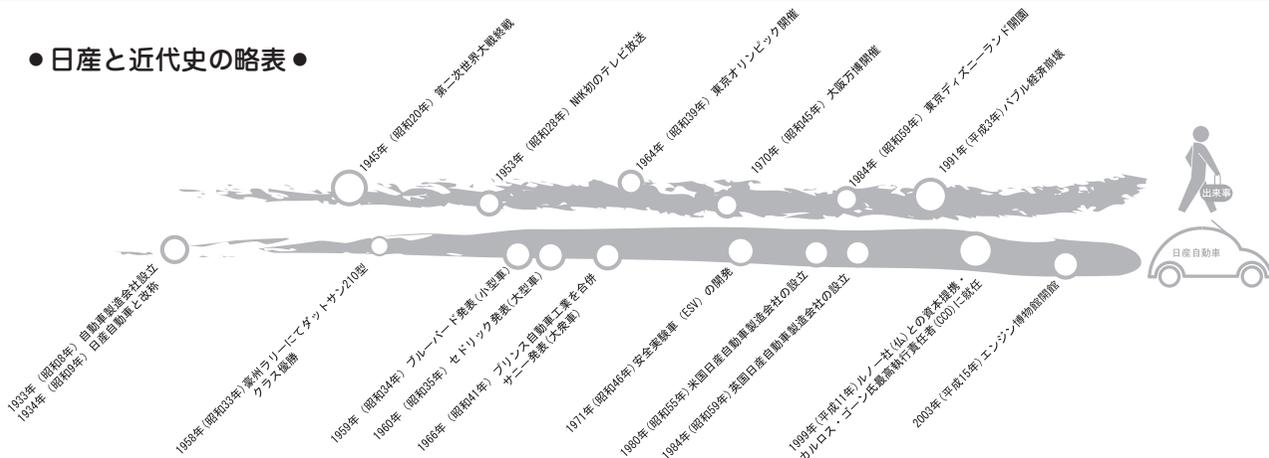
このエンジン博物館は、日産自動車が横浜の地に誕生したときから35年もの間、本社事務棟として使用されてきた建物である。一部改装してはいるが基本的には、そのまま転用されている。

2003年4月からのオープンで、すでに2,000人を超える見学者が訪れているという。

1階部分はエントランスからエンジン博物館までのスペースが完全にリニューアルされており当時の面影は残っていないが、2階は建築当時の状態がそのまま残されている。これも展示品目の一部である。

レトロな雰囲気が印象的な廊下は1965年（昭和40年）まで役員用として使われていたもの。展示スペースの一部には70年前から交換されず

●日産と近代史の略表●



●日産エンジン博物館●

【横浜工場ゲストホール（エンジン博物館）】

所在地：〒220-8623

神奈川県横浜市神奈川区宝町2番地

TEL：045-461-7320

開館時間：午前10時～午後4時

（6～9月は、午後5時まで）

入館料：無料

休館日：土曜日、日曜日及び年末年始

※祝祭日は、閉館の場合有り

展示内容：横浜工場と日産の概要・歴史、日産の環境技術、歴代主要エンジンとその技術解説 他

ないだろうか。

2階では、日本の近代史や日産と横浜工場の歴史がパネル展示されており、日産が近年特に力を入れている環境への取り組みや新技術の解説も行う施設になっている。

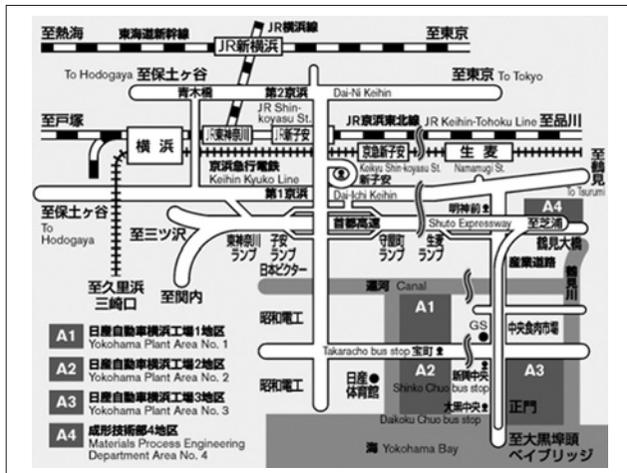
取材当日も日産OBの方々が博物館を訪れては、昔を思い懐かしんでいた。

自整業に携わる皆様もここに並ぶエンジンを眺めては、いろいろな整備にまつわる苦労話や思い出を語ってみてはいかがだろうか。



レトロな雰囲気が印象的な廊下は1965年（昭和40年）まで役員用として使われていたもの

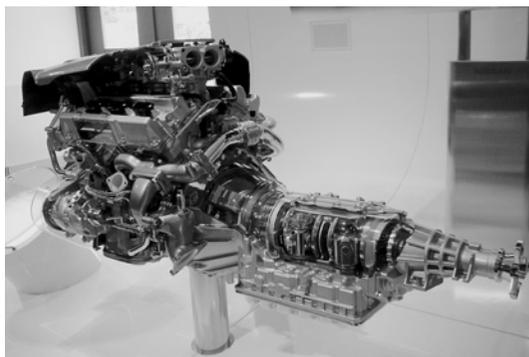
●案内図●



エンジンの仕組みを理解するための分解標本



歴代の日産エンジンが整然と並んでいる



最新の動力伝達装置(エクストロイドCVT)のカットモデル